

よりて、心得違ちがい有まじくや計り難く候、
 畢竟ひつぎやうは穀物こくもつの売買うりかいに付て、人に出し
 ぬかれぬようにという迄の事なり、もし
 百姓ひやくしやうの家にて酒食しゆじきその外の品を
 商うものあれば、村中のもの自然と
 飲食いんじきを始はしめ、諸事しよじに奢おご付き、農業のうぎやうを
 次つぎと成すようになり、以ての外なる

★畢竟（ひっきよう…つまり、結局、ついには）

奢（おごり…ぜいたく、わがままに振る舞うこと）

以ての外（もつてのほか…不届きなこと、けしからぬこと、意外な）

事故じこ、すべて町人めきたる商あきないは
 決して致けつす間敷候、且多葉粉たはばこの事、
 今は貴賤きせんとも日用にちようのものと成候、し
 かれども成べきだけ、吞のまざるにしくは
 なく候、扱酒あてさけほど害がいの甚はなはだしき物は
 なし、第一おひだ怠りししようを生じ、奢おごを長ちようじ
 喧嘩けんか・口論こうろんもこれより起おこり、身をも

★めきたる（めく…のような、…風である）

貴賤（きせん…身分の高い人と低い人、すべての者）